

昭和三十六年十二月二十日招集(第1号)  
第四回市議会定例会の議録



昭和三十六年度錦山市議会第四回定例会々議録(第一号)

昭和三十六年十二月招集

十一月二十日(水曜日)

一現在議員三四名でその氏名次の通り

- |    |   |   |   |     |    |   |   |   |     |
|----|---|---|---|-----|----|---|---|---|-----|
| 一  | 番 | 山 | 本 | 昇   | 二  | 番 | 石 | 井 | 孝   |
| 三  | 番 | 三 | 沢 | 節   | 四  | 番 | 小 | 林 | 寅之助 |
| 五  | 番 | 江 | 田 | 徳大郎 | 六  | 番 | 鈴 | 木 | 彦太郎 |
| 九  | 番 | 吉 | 田 | 勇吉郎 | 一〇 | 番 | 佐 | 野 | 信   |
| 一一 | 番 | 川 | 名 | 彦吉  | 一二 | 番 | 鴻 | 貫 | 杜作  |
| 一三 | 番 | 安 | 沢 | 徳順  | 一四 | 番 | 法 | 木 | 嗣郎  |
| 一五 | 番 | 鴻 | 田 | 繁   | 一六 | 番 | 遠 | 山 | ヨネ子 |
| 一七 | 番 | 志 | 村 | 信作  | 一八 | 番 | 安 | 西 | 政治  |
| 一九 | 番 | 田 | 中 | 忠藏  | 二〇 | 番 | 北 | 山 | 茂雄  |
| 二一 | 番 | 後 | 藤 | ゆき  | 二二 | 番 | 田 | 中 | 禄郎  |

二三番	吉田辰雄	二四番	飯田義男
二五番	賜田豊一	二六番	岩崎静敬
二七番	鈴木市藏	二八番	加藤玄太郎
二九番	森生田七郎	三〇番	長谷川光江
三一番	田村喜兵衛	三二番	鈴木孝
三三番	山口幸三	三四番	松本藤太郎
三五番	黒川佐太郎	三六番	山口康

二 議事日程

第一報告第一四号	昭和三十六年十月例月検査報告
報告第一五号	昭和三十六年十一月例月検査報告
報告第一六号	昭和三十六年十二月例月検査報告
報告第一七号	昭和三十六年十一月実施した事業補助団体監査報告
報告第一八号	監査報告(プール、図書館、小学校、婦人会館、休養施設簡易水道)

第二 昭和三十一年度竟輪事業の報告

第三 同会対策委員会報告

第四 陳情書（四中体育館）

第五 議案第一〇三号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例

議案第一〇四号 館山市学校職員給与条例の一部を改正する条例

議案第一〇五号 非常勤の特別雇の職員に係る報酬及び費用弁償に

関する条例の一部を改正する条例

議案第一〇六号 館山市長助役収入税の給与及び旅費に関する条例の一

部を改正する条例

議案第一〇七号 館山市教育長の報酬及び勤務条例等に関する条例の一

部を改正する条例

議案第一〇八号 昭和三十一年度期末手当の特例に関する条例

第六 議案第一〇九号 昭和三十一年度一般会計追加予算

第七 議案第一一〇号 昭和三十一年度特別会計公営住宅追加更正予算

議案第一二二号

昭和三十一年度特別会計国民健康保険追加更正予算

議案第一二三号

昭和三十六年度特別会計と場運動予算

議案第一二四号

昭和三十六年度特別会計休養施設追加更正予算

議案第一二五号

昭和三十六年度特別会計渡左間及び加賀名地区簡易水道追加更正予算

更正予算

第八 認定第一号

昭和三十五年度一般会計支入支出決算

認定第二号

昭和三十五年度特別会計公債貸付支入支出決算

認定第三号

昭和三十五年度特別会計国民健康保険支入支出決算

認定第四号

昭和三十五年度特別会計渡左間及び加賀名地区簡易水道支入支出決算

支出決算

認定第五号

昭和三十五年度特別会計と畜場支入支出決算

認定第六号

昭和三十五年度特別会計休養施設支入支出決算

第九 議案第九〇号

西神中學校屋内運動場建設工事請負契約の締結について

第一〇 議案第九一号

東小學校講堂建築工事請負契約の締結について

第二 議案第九二号 第四中學校、舎増築工事請負契約の締結について

第三 議案第九三号 錦山高等學校用地購入について

第四 議案第九四号 船形保育園設置について

第五 議案第九七号 錦山市保育所条例の一部を改正する条例

第六 議案第一〇一号 船形保育園建設工事請負契約の締結について

第七 議案第九五号 市有財産の処分について

第八 議案第九六号 経統費の設定について

第九 議案第九八号 錦山市職員、勤務時間休日休暇等に関する条例

第十 議案第一〇二号 昭和三十六年度神余林道開設事業分理令の訓導監理について

第十一 議案第一〇九号 国史資料調査審査委員会委員の補欠選任について

第十二 議案第九九号 錦山市火災予防条例

第十三 議案第一〇〇号 錦山市税条例の一部を改正する条例

第十四 議案第一〇二号 公有水面の埋立について

一 法第百二十一条による出席説明員

市 長 田 村 利 男

助 役 小 出 武 男

收 入 役 完 戶 貴

税 務 課 長 山 口 実

秘 書 課 長 山 谷 潤 昶

税 務 第 二 課 長 多 田 俊 一

商 工 水 産 課 長 羽 山 房 雄

建 設 課 長 新 井 重 助

市 民 課 長 利 田 正 男

農 業 院 計 課 長 吉 田 耕 一

保 險 課 長 神 作 啓 次 郎

税 務 第 一 課 長 高 木 哲 三

學 生 課 長 伊 藤 幸 太 郎

福 祉 事 務 課 長 長 谷 川 玄 治



企画室長 谷貝茂生

運営書記長 大島重義

消防署長 安藤龜吉

教育長 工藤和平

庶務課長 粕又貴寛

監査委員 川上 栄

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長 高梨清一

書記 大田博雄

同 井藤恭一

職員 山口晴之

出席議員 三名

欠席議員 一名

一一番 川名房吉

一 會議に付く事件

日程第七まで

千前一。諮問会

議長(鴻貫杜作君) 本日の出席議員数三一名、ミハヨリ第四回市議  
会定例会と開会いりす

本定例会の議案説明のため、内村市長、小出助役、荒久収入役、  
山口課長、山谷課長、多田課長、羽山課長、新井課長、利田課  
長、吉田課長、神作課長、高木課長、伊藤課長、長谷川所長、  
安藤署長、大島書記長、谷貝室長、二藤教育長、穂沢  
課長、川上監査委員以上の出席下、求めりて、ついで報告い  
ます

会議録署名員の決定下行いす

本定例会、会議録署名員に九番議員吉田勇治郎君、三番議員田村喜兵衛君の両君下指名いづれもす。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貴壮作君)御異議なしと認めます。

よって決定いづれもす。

会期、決定し行います。本定例会の会期につき議令運送協議会の意見は本日より一二月三日までの三日間ということであります。

おけりいづれもす。会期は本日より二三日までの三日間と定めますこと、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貴壮作君)御異議なしと認めます。

よって決定いづれもす。

本日、議事はお手元へ配付の日程表により行います。  
まず市定例会の議案件につき市長の説明を求めます。

(市長 田村利男君 登壇)

市長(田村利男君) 本日は山口幸三君、田村喜兵衛君、永年勤続  
の御表彰にあめどうございます。

一月市会に上程いたす案件といつては監査報  
告が大件ございます。それに決算の認定関係がございま  
してその他の議案件は二〇件、予算は大件、条例等にお  
きくすることになり、大次第でございますが、おもむきの  
といつて九〇号、西岬中学校スポーツセンター

東小学校の講堂、消防庁舎、保育所、市職員、勤務時  
間等、向題、また火災予防条例、船形保育園、建築工  
事指針、神余林道、関係などあります。さうに大きな  
向題といたしまして、うしろの館山市職員給与条例

の一部を改正する条例、これは政府の内示するところにて、  
従つて、鎌山市におきましては、これに準用いたす。  
そして、それによつて、果ては、方針に従つて、その下、条例に之を  
いくつ定め、なして、おろす。それらの条例が六件あるとい  
ふ。さうして、九号といふ。そして、これは、固定資産評価委員  
が、委員になつて、おろす。で、この補充、また、三六年度の  
一般会計、追加更正予算、第六件、下、含め、そして、二〇件、アラス  
六件の案件、おいて、その、い、ところ、恐縮に存じ、ます、が、慎重  
審議のほど、下、お頼い、申し、ふ、ます。

。議事（通貫的作業）日程第一、報告第一四号乃至第二八号、一、移して  
報告を求めます。

（書 記 朗 読）

報告第一四号 昭和三十六年度一月例月検査報告

報告第一五号 昭和三十六年度二月例月検査報告

報告第一六号 昭和三十六年度一二月例月検査報告

報告第一七号 昭和三十六年度一〇月実績一六農業補助団体監査報告

報告第一八号 監査報告(プール図書館 小学校 婦人会館 休養

施設 簡易水道)

(監査委員川上栄君登壇)

監査委員(川上栄君)御報告申し上げます

報告第一四号 去々一〇月一三日実績いづゝ一六例月検査の結果

と御報告申し上げます

九月中、市税の収入は六百七万七千円であり、収入累

計額は七千八百九十六万三千円となり、一六納期到来分に

対し、一六収入歩合は七八・四%となり、一六前年同期の

収入歩合と比較しますと、三八%上昇しておる次第でござい

ます

市税収入未済額七千三百十六万一千円であり、一六納期到

来分五千四百四十員万三千円と納期前納付額二百三十  
五万九千円下除ますと正味滞納額は二千百五万七千  
円とより前年同期に比較して三十三万八千減少してお  
ります

税外収入でございすがおもひものは地方交付税の二千三  
百一十四千円 その他五百七十五万三千円とございす  
ます

支出面でございすがおもひものは土木費館山港改良工事  
費概金百万円 産業全済費豊房北部土地改良区補助  
金四十九万四千円 公債元利還元金二百六十一万五千円  
でありまして予算額に比して三十三万八千減少して  
おります

特別会計につきましては省界をまたいでいたります  
報告第一五号より二月一五日に実施いたしました例月検査

の結果、御報告申し述べます。

一ヶ月分の市税収入は五百七十九万三千円、収入累計額は八千四百五十五万六千円とござります。一ヶ月の納期到来に對して、収入歩合は七九・八とござり、前年同期の収入歩合と比較して、一・三と三・九と上昇してあります。

市税の収入未済額は七千二十七万八千九百六十円でありまして、納期到来分五千百七十一万四千円と、納期前納付額は二百三十二千円と除きますと、正味滞納額は二千八十五万七千円とござります。一、前年同期に比較して、一・三・五と減少してあります。

税外収入、おもなものは競輪収入の二百二十万円、その他七百三十三万六千円とござります。

支出面では、いすゞが、そのおもなものは乗用車の購入費百十五万五千円、土木費、船形港修築費、現金百万



円賦資産の浸、厚生寮の敷地への購入費用三十万円  
でありまして予算額に於いて支出累計額は三八、四  
百とありまして

特別会計につきましては省界を設けていたります  
報告第一文号による一二月一ヶ月実施いたして六ヶ月検  
査の結果より脚報告申上げます

一二月分、市税収入は千二百三十八万五千円でありまして  
内訳は甲エグりますと市県税は四百七十七万二千円、固定  
資産税三百七十八万月々、消費税は百六十四万二千  
円、電気ガス税は二百一十五千円、その他十萬五千円と  
なっておりまして収入累計額は九千六百九十四万円と  
なりまして納期到来分は千七百六十の収入歩合は八一  
とありまして前年同期の収入歩合と比較いたします  
すと二九名を昇してあります

市税の収入未済額は七千三百一十八千円であり、その納期未分五千四十一万九千円と納期前納付額は百三十九万二千円と除きますと正味滞納額は二千三百一十八千円であり、その前年同期と比較、三、三〇減少しております。

税外収入のおもなものは地方交付税の二千三百一十八千円、その他千三百一十八千円とあります。

支出面においても、土木費、船舶運賃及び富崎運賃の修築工事費、現金百八十八万、一中校舎修築費、契約金三百七十五万円の残額は百一十五万円、赤南中学校技術科教室増築費、五十九万九千円、公営住宅工事契約金、第一回支払い金、二百七十八万円、公債元利償還金、百三十三万六千円であり、その予算額に比し、三、三〇支出累計額は四百五十五万とあります。

特別会計につましては省界マセていまいます。  
報告第一七号ある一、月六日、九日、一三月の三日間にわたり  
して豊赤北郡土地改良区と真倉改良共同施行 布沼根  
切寺同改良施行 安赤甲史土地改良区の昭和三十五年  
度補助金への出納事務、その他につましてこの監査の結果  
果し御報告申し上げます。

豊赤北郡土地改良区であります。が今年年度は四月から  
翌年三月までの年度となり、ております。ので決算が  
遅れております。その収支も明らかとするにとり  
まします。市へ補助金百六十三万九千円の  
受入れは現金出納帳によりて確認いたしております。  
次に上真倉用水路改良共同施行について申し述べますと  
新設の用水路の土地所有者からの借借契約 または承認  
書がないのであります。市へ補助金九万二千四百円

「受入れは現金お納込によりて確認いたす」  
 次々布沼沼切改良共同施行について申しえがすすしと買収  
 した木田七畝一歩畑二〇坪をその手続をばなすれて  
 いすせんしした。市への補助金十五万四千二百月の  
 受入れは現金お納込により調査いたすすしと九万九千  
 二百月つけもいふありすした。これは即日受入れ下す  
 していたすす

次に安永中興工改修已について申しえがすすしと会計年度  
 は九月のう聖年一八月までとなす、てありすして収入  
 支れ下明うのにすし決算を行われておりすせんし  
 た。市への補助金五十五万四千月の受入れは現金  
 お納込により確認いたすした。

次に報告第一八号を一九二〇年二月二二日一月二八日の  
 三日間をわたりして館山パール図書館畑小学校、

婦人全館 旭山荘 簡易水道等、昭和三十六年度

お納めの件についての照査の結果、報告申しあげます、

詳細につきましてはお手元の報告通であります、

の概要を申しあげますと、プールでございまして、使用料

の徴収は、理令お納金で済ませ、その収支を明らかにす

べき下地とつけ合せのため、不明確であります、

合宿所の使用につき、使用済下地とつけその収

支を明らかにすべき下地とつけ合せのため、不明確で

あります、プールの周囲の市有地、約一反六畝、無断で

畑に申立て使用したものに、お教へを致置かれており

ます、

次に図書館について申しあげますと、貸出しの図書目録の

回収未済五七冊、お返しと回収困難の状態であり

ます、

次に如小學校について申し上げますと備品へ藥品処分  
されたものやその記載がないため不明確でありました  
また電話で使用する場合使用後下備につけ公便の区別  
が明らぬにすぎます下備につけがないため不明確があり  
ました

婦人会館につまみでは使用料の徴収に当たっては現  
金出納簿によりその収支が明らぬにすぎます下備につ  
けがないため不明確でありました

次に趣山荘について申しあげますと会計組織が官庁  
簿記と複式簿記と採用してあります下備式簿記と  
採用してある以上は少くとも毎月計算書を作製し  
その収支が確認し合せて運営面が検討すべきに  
作製されておらずやんちゃです。その上元帳の記帳が不  
完全でありました

次に簡易水道について申し述べます。水道の使用料は使用メーターによつて料金下計算すべき下一律基本料金のみに徴収してあります。

以上大要として報告申し上げます。

一七番(志村信作君)報告第一文号の中で税外収入地方交付税が二千万その他一千万と申しましたが、その他の一千万の内容はくわしくお願ひします。

瑞穂課長山口 史君 その他一千万というのは、各項目ごとくあり、ある内容のものがございます。

二四番(飯田義男君)健康保険料の納入状況についてその後の状況として簡単に御報告いたします。

保険課長神作善次郎君 回答と申してあります。

健康保険の保険料の収納状況でございますが九月末現在の一二月末までの状況と比較いたしますと大体

昨年秋に比較して、第一期、第二期、第三期も約二八、二九近く、収納率の状況下みてゐる現状でございます。二月九日現在では約二七七程度の、上昇率下みてゐるような状況でございます。

昨年度から比較して、非常に上昇してゐるのが現状でございます。

一、番（山本 昇 君）監査委員の各方面における適切な報告に對して、その努力多とするものでございます。私どもとて尋ねたいのですが、報告第一七号に突進して、中史土地改良のことでございます。監査委員の報告にもございます通り、賦課金の徴収について、わめて低調を示してゐるというふうなことが指摘されておりますが、私どもの聞いた範囲におきまして、この事



業に對する土地の所有者農民の方の理解といひ、  
さういふものがきつめて薄いといふことと  
關いてあるのをごいいます。もちろん關係方面にお  
きましてはその理解工作あるいは趣旨の徹底するに  
てあると思ひます。特に今回指摘するに於いてあるとい  
ふことについてはその後とにかくいふように進んで  
あるのか、少くとも市費にこれに注ぎましてこの事  
業が完成したいといふ観点になつて私ども、心から  
協力するものをごいします。直接受益關係す  
るところの農民の理解がなないといふことは  
きつめて不完全であらうかと存するものをごいします。  
さうした観点になつて賦課金の徴収といふことが低率  
を示してあるのではなないかといふことと考へます。さう  
いふことと對する適當の考へ方またこれへうどう

道におかその点をおしえていたこと、

農林統計課長（吉田耕一君）の御質問に対して  
私も指導して進んでおります。範囲田にあつて  
して御回答を申し上げます。

安房中央土地改良区が設けられて三三年度から  
事業が開始されて実際の改良の面につけては  
仕事は三三年度から着手してある現状でございます。  
従つてその間三三、四、五年度賦課金の令書下  
発をしたのでございまして、これも指導されております。  
す通り低調なものである、というはまだ改良区  
の役員、受益者またそれに関連しているところ、市、  
産業関係、援助指導という面も実際に不徹底で  
あつた、というふうに考へております。

農林省の指導監査等によつてもこの指摘は十

分うけておるわけでございます。――役員方々も各地域  
にとり本當の個々の組合員に對して、そのP、R、の不  
足と考へて――現在地区に――を参りてその獲得、  
協力理解という線を進めておる現状でございます。――  
去る九月末におきましてこの三年の平均は――と  
徴収率も二五〇程度だ、とのでございますがその後一〇月  
以降におきまして督励班等を作りまして、徴収員も  
おの／＼地区に責任をもつていゝゝゝゝ今年の一二月末ま  
では予定目標の最低七〇〇程度までには上昇させて  
いゝゝゝ方針の下に進んでおります。

一二月の五日でございます。――それまでの徴収状況下みますと  
と四三三ハタの現状でございます。――とまんじとではとも  
今後、事業が危ぶまれますと考へて――役員諸氏 週ご  
う――一日臨時協代会下開きまして果の耕地課長さん

においで頼みます。その必要はと今後の事業構造の改  
 善はさうなるやうなところ、面へうP、Rのいた  
 してあるわけではない。そして私ども今後十分援助  
 努力してや。てでまのりけハ〇〇程度までの線に確  
 保して、そのように努力してあります。その公庫  
 借入れでござい。ます。がその負担金の徴収が、はんば  
 ー、ないというところ、うい。て一定徴収率の  
 上昇するまでは貸出しは、と遠慮する。や。とい  
 うふうな苦境にある。い。であるわけではない。ます。  
 そ。ういう面下組合員個々に、き。て協力をお願い。う。と  
 いう方法でや。てあります。大体、こう。な。こと。に。し。て  
 して何と。三六年度事業下完成すると同時に新  
 年度事業予算の獲得も合せて進めてい。ま。す。い。この  
 ふう。に。考。え。て。あ。り。ま。す。

・議長（嶋貫水作君）日程第一＝昭和三六年度一二月現在に  
ありろへ市競輪事業について鈴木市蔵君より報告  
の行われり

（三七番鈴木市蔵君登壇）

・三七番（鈴木市蔵君）八市競輪の報告について  
両手元の報告書目下御覧いただきまう

本年お四月 七月 十一月 四回開催いたして

四月、総売上金一億四千三百四十三万七千円 経費、支  
払いとして残ったもの、が千二百萬 それで一市きり百  
五十万の配当がある、それでさういふ事

七月は表でみていって、九月分総売上が一億七

千六百万 一二月分が一億七千八百万 それに対して九

月分が二百二十万の配当 一二月分が百八十万の配当

一二月分の方が売上げが多くあつて配当が少いという向

題で下べされけ千葉競輪におまじーては臨時用人  
 下組一〇人 松戸は一六〇名の臨時下便、てあるので  
 ございます。それ本年労働組合でまじーて  
 期末手当の要求であ、て一月にありまて千葉でサ  
 の労働組合の折衝は終、たのでございます。その要求  
 は千葉競輪を平均にして月六日間の開催日があ、て  
 松戸は四日乃至六日と、てある関係上千葉の方の組  
 合としては一五日分の要求であ、たのでございます  
 一五日分というは千葉の一日の日当が四百七十円 松戸が  
 四百六十円支払、てあるのです。執行部と組合代表  
 との話し合いの結果 約一日分 まうに均等割三百円  
 下まて一一日分で組合との折り合いがついてござい  
 ます。その金六百七十万。そうすると松戸の方は三三  
 日のうちで解決すると思ひます。おそらく千葉市の



リを以て目ださうでありましてお手元に配付、通り、諸  
肉題下、まがりまして現在開会中の国会並に来季  
度予算編成中の政府各省に於いて陳情下行して  
参りまして来るニ七月二八日、二九日の三日間は各市の  
当番と申して、まうか勤務割当てを受けまして、地方大  
団体、同族の諸君と政府国会に陳情することになり、て  
おりまして、以上簡単でありまして、御報告申して、おしまふ。

議長(鳩山)「作見」日程第四請願書

(書目 記 胡説)

請願書目

三番(三)次節「紹介議員として一言申して、おしまふ」と思ひ  
ます。

請願書目「示されてありまして、まうか第四中学校統合



の趣旨は、よりとわかりと思います。当時私共が  
野中学校の会長としていた関係上、こういう小さな学校  
における教育の成果を上げるということとは非常にあつ  
たし、ということに感じておりました。ことに職員と同時に  
施設関係がまわめて困難な下に来たので、二つ一踏  
みして統合の結果、まじめな施設を設けたいということと  
から第五次計画を設けて第四中学校への施設の完備  
が、今まで努力して参つたのでございます。本年度です  
で、第三次も終り、第四次の講堂、現在まゝでありま  
す。裏の田舎大坂もあり、整理をすて、すでに整理され  
て、いつでも講堂が建築できるというふうな準備もで  
きておりました。こういうわけで、私も決して思いつま  
ないために講堂を建て、あえて体育館にということにな  
り、二つが自主的に統合して、その結果として第五次計画

ためわいて現在まで進んで来た立場にすでに埋立も  
 できてゐる現在におまゝではせぬともこの講堂下  
 作って統合の名にふさわしい第四中学校としてこれか  
 ら進んでいきたいという地区民の熱望かうなんであり  
 ます。い、かえつてなうば第四中学校は農村地区の中学  
 校であります。従つて将来錦山市が農村地区の  
 子弟を教育する場所は第四中学校であるというま  
 で私々には誇りでも、と進んでゐるわけでございます。  
 もとと具体的にい、まゝなうば上野原にあるいは古茂  
 口飯沼とかさうい、た農村子弟は努めて第四中学  
 校において教育の場としたいための施設、計画と私  
 たちは考へてゐる次第でございます。幸いにしてセ  
 羊の園には各市長さんや町長さん、御熱意によりま  
 して第一歩まで進んだことは地区民として心から感謝し

ております。私たちの院合の熱意ももう一ぺんお考之下  
さい。そしてこの講堂建設と体育館建設とせむとも実  
施にうつしていかうまいと考えるのぢありません。

特に最後に三々年度と申しておられますが私々としては  
それ下固執するわけではございませんが近き将来に  
おいてせむとも実施していかうまいというのと下念願  
して終りまいと思ひます。

議長(鴻貫壮作君)本席願書に採択することに御異議ござ  
いますせんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議ナシと認めます。

よって採択することに決しました。

可。本席願書は市長並に教育委員会に送付いた  
す。それと御異議はございませんか。

(「異議アリ」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫杜作君) 御異議アリと認めます。

よゝてそのよう処理することになりました。

議長(鴻貫杜作君) 日程第五議案第一〇三号及至一〇八号下

一括して議題といつて可うす。

(書記 朗読)

議案第一〇三号 館山市職員給与条例の一部下改正する条例

議案第一〇四号 館山市学校職員給与条例の一部下改正する条例

議案第一〇五号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁

償に関する条例の一部下改正する条例

議案第一〇六号 館山市長助役収入税の給与及び旅費に関する

条例の一部下改正する条例

議案第一〇七号 館山市教育長の報酬及び勤務条件等に関する

条例の一部を改正する条例

議案第一〇八号 昭和三十六年度期末手当金の特例に関する条例

議長（鳴貫水作君）休憩いたします。

午前一一時二〇分休憩

午前一一時三五分再開

議長（鳴貫水作君）会議を続行いたします。

議案第一〇八号乃至第一〇八号討論有罪原案通り可決いたしますことにより御異議ございませんか。

（異議なし）と呼ぶ者あり

議長（鳴貫水作君）御異議ございませんと認めます。

よって確定いたします。

議長（鴻貫水作君）日経第六議案第二〇号に工程いろいろあります

（書目 記 朗 読）

議案第二〇号 昭和三十六年度一般会計追加更正予算

総務課長（山口実君）例によりまして、裁士の議会費から説明申し上げて

今回追加更正額といつて百六十一万八千五百円計といつて、これは今回給与改定による、この議会の関係の職員並みに交際費十五万の合計でございます。

次に従前費に於いて、二百三十一万三千三百円、追加にお願いいたす。そのおもむきは給与改定、人件費の増でございます。需用費三十六万二千七百円、お願い

いたす。そのおもむきは印刷費の三十五万市

政要覧一〇〇〇部印刷する予定の不足額でございます。

三、節費控金補助及び交付金 保険料、いろいろたものは

給ふ改定に伴う職員の組合費の肉保をいふす。  
次に消防費について申し述べます。消防費において三百  
四十六万二千六百円の更正となつております。これは消  
防庁舎肉保をいふとして、これは二年で継続事業  
としてやる肉保に当初予算で三年で計画しておつたものが  
二年間二年肉保上に変更額千五百五十万円の  
更正額により、四百八十万円のおもひもつていふ  
す。

三項消防団費において五十三万計といつた、これは  
は備品費として神余分団の積載用の三輪車を買ひに  
老朽でもって使用に耐えないので五十三万で先般西岬の  
物分団に購入したものと同じものを購入してこの避地  
神余の防災下完全にしうとするものでございます。

建設部長(新井重助)君土木費について御説明申し述べます。

土木費におまして二百八十万円、更正でございますが、そのうち道路橋梁費におまして貸金で二十万円の更正いたして、これは従来人天債を払っており

まして運転手の職員が採用にありまして、更正いたして、燃料費は新車でございますので、案外か

から、この年で四十五万五千円更正いたして、二四節の工事請負費におまして五万六千円、これは去年一月の二四号台風におまして、見物地先の石積みがくずれまして、それと便所といと考えて軒下をわけてございます。新設改築費におまして二百四万二千

円、追加は二級園、果道、上野原と佐野の工事、果道を施行してございます。それに伴います道路改修費、果地において不足いたして、一般果費下も、そのほかというところ、この工事費の四割下



負担するにとりまして、なおその外に館山大  
貫千倉線の橋梁をいふいます。長さメートル  
これ下コンクリート橋にかけのえる負担金、丸館山  
線三芳の方をいふ道路の拡張をいふいます。  
その負担金と南豊公園線の橋梁のかけのえ、こ  
れは鉄筋コンクリートでかけのえる。以上五ヶ所の負  
担金をいふいますので当初計画した予算に足りませ  
んので二百四万二百万追加をお願いにわけていふま  
す。

河川港湾費で四十万円の追加、二四号台風にあつて  
て館山桟橋と北条桟橋、那古桟橋のケタを浚おいた  
りまして、これ下補充いたつますものでいふいます。  
それと川崎の川が護岸をメートルほど欠けまして、  
でこれの復旧費四十万をいふいます。

水道費のうち取員手当給料は先付との条例の因  
係にございまして、仰了承願いたします。 需用費で

ございまして、昨年に就きまして、水深地に水がたま

らない。 今年は四月十七日以来時雨給、水が下い

て、夏期については消防のポンプ車も各家庭に配水する

という事で、井戸の試掘も始めたのでございまして、

一〇〇メートル下がります。 福分は約一〇あるという状態

で、水の放出量もございまして、これで下やめまして

宮城の水源地の脇にございまして、宮城農業実行

組合でも、ございまして、溜池の水も豊富にござい

まして、農繁期以外は水が使用してございまして、

この水が一本補給して、もうこうなると、農繁

期以外は水が下いまして、あるいは野水池の方に

も、農繁期にございまして、水が下い、現在、水源地の水が下い

用いまして夏期に流れていこう　こうしますれば  
は完全に運営がつくという見とみの下で今回工事  
費でございまして土壌の交渉その他もございまして  
ので今年の追加はエタニックパイプで五メートルほ  
とやってあと機械器等は翌年度で購入していくと  
いう考えの下に計上したわけでございます　この費用  
九十六万追加をお願いするわけでございます

公営住宅建設費で二五節備品費一万円は平板測量  
いろいろ下つて平板測量の機械が老朽にございまして  
使えぬものにならぬので買ってまいりたい　旅費と食  
料費はもう更正して買いたいと思つております

失業対策事業でございましてこれは一月から三月まで  
九重の大井の道路工事を始めたいので従来は遠い土  
地の改修事業についてはトラックで人夫を輸送して

いのでござりまする。最近道路交通法をやめようとして、  
 マーケットでトラックで運搬していただきますとあとで  
 困るのでござりまする。今回は日東バスに乗せて運搬  
 して、あつたところから六万円の旅費を計上いた  
 して、その費用は報償費から更正してお  
 ります。

。市区課長利田正男 君 市役所費七項住民登録等事務  
 費について御説明申します。

今回十二万九千五百円の追加予算をお願いいた  
 して、内容におきましては九節の費金七万九千二百円  
 は住民登録、一斉調査、一月一日付でいりますので  
 従来超勤で行っており、その事務が繁忙になり  
 ましたので臨時用人でも、まわしに行いたくと思  
 います。消耗品印刷製本費は物価値上げのため

不足が生じましたのでお願いいたしましたが、五節  
の備品費、戸籍タイプ購入費下をお願いしたのでご  
ざいます。戸籍に記載する場合にそれ／＼文字  
に肉違ひ等ございますので科学的に処理するた  
めに追加をお願いいたしましたが、ご不います。

庶務課長(穂沢貫寛君)五款教育費について申しとげます。  
今回追加額五百千六百円でございますが、このうち給  
料表の改正期束手当の改正によりまして要する人件  
費の増分は二百四十三万七千円でございます。

小学校の需用費の備品費に十五万五千円追加とい  
うことが、このうち、この購入費は二十万、  
小学校で今回、この購入を認めたというもので、このう  
ち十万円が地元寄付でございます。オルが購入  
費は十六万、これは東小学校の分でございます。

便所に耐えなくびりまうてビアムを売却いたうして  
てそれでオルガン下購入したいというものでござります  
す。管理費、工事請負費で六十万円追加いたうして  
います。これは館山小学校の便所改築工事費一棟で  
ござります。今度果て建設条例が改正にござります  
と便所改築の場合は尿槽を三槽にしなければなら  
ないというところで一回坪でござりますが、このように  
工事費がかわるわけではございます。

東小中学校の諸般電気配線工事費として十万円、  
今回東小中学校の工事にかゝるわけではござりますが設計  
の中に材料の値上げ等で電気工事費が含まれる  
という事とせんので、その分として十万円計上いたう  
してござります。

中学校費の備品費で技術家庭科備品費として

三十万円計にいたります。これは当初予算にあつて一校分十五万円見込んでおつたのでございまして。今回果て方かう三校分指定されまして、その三十万補助金に追加にござります。その分三十万追加にわけてござります。工事請負費で二十五万円、これは西岬中学校の屋内運動場の電気工事費、当初予算に計上いたります。付帯工事費では電気工事、ござりませんので、これだけ追加にわけてござります。南中学校の仮教室設置工事費、南中学校は来年一学級増にござりますので、来年だけ仮教室で勉強するために現在生徒の更衣室にござりまして、とりまして、ろく改造いたしまして仮教室として来年度の学級増に備えたいというものでござります。高等学級費にござります。管理費の工事請負費

を四十四万六千円埋立て工事費として計上いたして、  
 施設費は二十六万七千二百円土地購入費として計上  
 した。これは一畝二丈歩で館山高杖の西側下  
 流れてあります水路の西側でございします。今度校地  
 を拡張するやめの一部でございします。この賦課は  
 丁、Aの寄付によつて受入れらるものでございします。  
 これは坪千円で四四大坪分下みたわけでございします。  
 その地公民館費、社会教育関係の費用等は大体必要  
 経費下ほの費用から更正して、三月までの必  
 要なもののみをみこんだわけでございします。

福祉事務所長（長谷川方治君）第大教社会及び労働施設費  
 の福祉事務所の所管にかゝるものについて御説明申  
 します。

三項、児童福祉費というところ、十九万七千二百円追



加いまして、以下三ノ更正いまして十九  
万二千四百四円で参ります青少年問題協議会、科  
目変更によりまして更正下いまして、戦後にした  
わけでございます。＝四節。工事請負費として十  
五万円追加。これは島崎地区のユースホステル誘致に伴い  
まして児童遊園地を建設いたしますことによりましてわけ  
でございます。その上止め工事費として十万円。それ  
は市内の各地の遊具施設、工事費として五万円  
有量。児童公園の工事は三メートルばかりの地盤  
に上りて上止めの工事下りたわけでございます。  
埋立地でございますのでセメントによつて上止め工事下  
いまして、さう考へては不月計エいまして、  
青少年問題協議会として九万円。館山市ではまだ  
正式に形の上で設置してございまして、今回県補助

金四万五千円に上るという指令に接し、そので  
 形の上で青少年問題協議会というものを作り、そ  
 青少年の<sup>保</sup>護育成あるいは指導の真の機関として発  
 足してみたい。という関係で約九万円の追加計とい  
 へわけをいふいます。四の施設費等につまづいては

新協議会へ委員関係の普通旅費をいふいます。

設備費二万月分は児童関係のいろいろな講演会等下

南催したいというところで講師四人下対象にいろいろ

二万月計といふ。また保育所費にふます。

ては人件費をいふいます。で省費下いふいます。

七項の精神薄弱者援護費として三三節で三万月

計といふ。これは精神薄弱施設として館山

学園というものを館山市手をつなぐ新の会で設

置いた。と運営しておられるわけをいふいます。



おもしろいといふと考へます。大体概算で生活保護を  
うけてゐる人は除いて割合に生活に困る人々を平均  
いろゝと約四百月位のもので、年々養援金と  
と差をつけてゐる。それで現在民生委員協議会、福祉  
協議会、募金協議会三者で行われてゐります。助合  
運動は市への寄付と。こういう形にして計  
画してゐりますので直接関係はございませんが、審議の  
参考として申して置きます。

議長（鴻貴）お説明中でありまして、暫時休憩いたしま  
す。

午後零時五十分休憩

午後三時十分再開

議長(嶋貫壮作君) 午後のお席議員数二十八名休總前に  
引続々會議下開ります

議案二一〇号の内容説明下続ります

厚生課長(伊藤幸太郎君) 第七款保健衛生費でござい  
ます。総計七百十三万五千五百円、追加をお願いするわけ  
でござります

特に申し上げたいのは隔離病舎の中。三三節の六百四  
十、四百六十八、四百の件でござります。すべし、これは付託も  
書いてござります。すべし、三才村との隔離病舎の組合に付  
する分担金でござります。分担金の額につきまして  
は一般会計、予算書に、次に参考までに組合の予算  
書に添えてござります。ので御覧いただきたいと思  
います。その分担の割合は、これにもござります。すべし、うに館  
山市の六百四十四万六千八百円、三才村の百六十一万千

七月月ニハ判合いでございす。以下につまづては

別段申しエグな点もございませんで予算書目によ

つて御了承願います。

・農産統計課長吉田耕一君(産業経済課員)につまづて御説明

申しエグます。

第一項ハ農業委員会費でございす。が需用費につま

づて三三節負担金補助及び交付金につまづて今回

四万九千百円下お頼りしようとするものでございす。

これはいろいろと農業委員会ハ付属機関といつて

つて農業労力調整協議会というふうなもの下作り

つて、このでこれにやつて、その必要を費下し、に負

担支出いづ、といと考えるわけでございす。さうい

分の一につまづては果におつて市町村へと助成

下することになりすので歳入面は二分の一入ること

おります。そういって、今後、農業関係の労力  
調査も十分に期していきたいと考えております。

農林費でございますが、今回お願いしようとする額が  
五十九万円。そのうち生産対策費三十万円、これは館  
山市の農業共済組合事務所の新築費にいたしますと  
ころ、助成下いって、このように考えるわけでございます  
です。総工費二百九万五千円程度、これにいたします。

予定以上の全費が、このことかういって、大体  
一四〇程度で助成いって、この園芸振興費二十万円  
これは館山市の清浄野菜栽培組合というものにいたしま  
して二十万円支出しようとするものでございます。果下  
で大ナシそのうち一ノ所館山市が園芸特産地として蔬菜  
のパイロット地域に指定されたわけでございます。この  
指定につきまして大体一五歩四千円程度、五町歩分＝

十万坪以上の間に、このように考えます。その二分の  
 一は果樹パイロット地域に、そして助成をいたします。  
 畜産奨励費を、いろいろ、農業基本法に基  
 づいて、農業構造改善の一助という、そして本市へ  
 畜産の主要地として指定されたわけでございます。  
 畜産の中でも本市は乳牛、畜産指定地ということに  
 なるわけでございます。この構造改善等にいろいろ  
 と必要な指導機関という、そして推進協議会という  
 ものを作り、これにあたるというふうな関係が  
 いろいろ、そして果樹、そして二分の一助成を迎  
 えて、市へ半分負担という、そして本議会の目的  
 が達成して、いた、というふうな考えのわけござい  
 ます。

次に土地改良費、林野整備費を、いろいろ、これに



二角十六万月にお頼いしようにするものとございます  
大体神余畑に林道を作りまして林業開発をい  
たい、延長は大体二ミロメートル巾員が三ミロメートル  
もの下作りをいと考えております、この負担につきま  
すは大体国庫が半分近い百一十五万月、果は十萬月、地  
元の分理金として六十一万三千月、市費四十三万月、この  
事業の完成下いになりますと考へるわけでございます  
各格員以下、項目につきまして、これは必要は事務  
費、資材その他、計をいまして、市の直営事業と  
いまして、実際、いと考えてるわけでございます、  
なお二大節、原材料費におまして、二十四万七千月  
余計をされております、これは二ノ所、程度の石、材  
下購入、いまして、肉保から大い、額になるわけござ  
います、

次に一〇款統計調査員でございまして、今回行われます  
工業統計調査下実施いさゝますのに調査員一七人に  
対し、了す報酬並にこれに必要な消耗品費等下計に  
いさゝます。この賦課といさゝます。委託金で固の  
方へらますので方へに見え人である次第でござい  
ます。

。商工水産課長(羽山 房雄君)七項水産費の説明といさゝます。  
去る一〇月九日の二四号台風により、て被害をうけま  
す。一種漁港へ、に揚がる三港につぎ、て西川名  
漁港は排水路の土止めと上り補強工事、これ十一  
万六千円、伊予漁港の船曳場と上り補強工事二  
十六万円、香漁港の岸壁の復旧工事十五万五千円、それ  
ぞれ追加をお願いして早急に復旧して、いという考え  
でございします。

。後務課長（山口実君）九款賦資産費について申し上げます。  
十七万六千円。追加。おもしろいところでは二  
三節修繕料、十五万円でございします。これは豊彦  
駐在所、下町の市の管理に、よります。警察  
署官舎の屋根、ふす習之等の、見積額を予定して  
計上いたしてあります。

。選挙書札長（大島重義君）二款選挙費について申し上げます。  
四万七千八百円。追加更正でございします。このうち一割  
は選挙管理委員会費は経常的なものでございします。  
で省累々していただきます。

選挙啓発費、四千九百円。追加。これは特に印刷製本費  
で公明選挙推進運動に役立たせる目的で先般全市の  
約一〇〇〇世帯、有権者につまみつけてアンケートを実施  
したのであります。初めての試みでありますので、本市

の当初予算より印刷費が一萬四千七百圓、オーパーで  
ありまして、そのうち一萬圓は委託料を更正してこれ  
にあて不足四千七百圓を追加でお願ひして計上げてお  
願ひいたします。

・総務課長山口実君一ニ款公債費について御説明申上げます。  
七十九万圓の減額更正いたしまして、第一項の元利償還金  
といつて、五年度の公債のうち公債借入れの時期の下に  
は、まして不要とせられた額三十三万更正いたしまして、  
次に二項の一時借入金利息といつて、まして四十六万減額いた  
しまして、一時借入金に必要な額がなくなつたので、一本今回四十六  
万減額しようとするものでございます。

・税務第一課長高木哲三君一ニ款諸支出金の徴収費について御説  
明申上げます。

市税調査費で五十五万三千三百圓追加いたしまして、一節

の報酬七万二千円、これは今度自治省より家屋評価額  
改正の依頼がございまして、その評価補助員の報酬  
でございまして、消耗品は軽自動車、鉛板でございまして、  
二四節印刷費、これは市民税の申告書とその封紙が、あも  
るものでございまして、二五節備品費は、茶付自転車二台  
購入して、いそぐ予定で計上してございまして、

・税務第二課長(多田俊一君) 徴税費の第四目へ奨励啓発費に  
ついて御説明申し上げます。

特に申し上げるものもございまして、せんが、それ、消耗品、燃  
料費、これに約一万九千円の不足を計上してございまして、  
改正賦課といつて、第四節旅費、市内出張旅費、  
当初十八万四千七百円計上して、たが、徴税員が三名  
減員になつたので、五万近くあまる見込みでございまして、  
で、この中から一万八千七百七十円、<sup>更正</sup>正す、いそぐため、けで、

おいます。

企画室長（谷田茂生 君）<sup>新</sup>市町村建設事務費の運用について  
脚説明申し上げます。

企画室長でございます。これから総合開発面につきましてい  
ろく検討してあります。後日また計画につきまして  
御批判御指導下さる機会があると思っております。衣  
省界いささして水の問題が一番重要な問題にな  
って参りました。特に本年度は数十年來の水不足に  
みまわれまして農業方面では畑地灌溉その他で  
苦勞してあります。また今までに館山市に大まかな  
社の進出の誘いがございまして、結果土地条件の一番  
大事な問題として水の問題が原因でやめになつた  
というところもございます。これからの方向でも、  
て市の開発下はかつていくばくとも水が重要な問題



万繰りおろしてこれに充てようとするものでござります。  
 今回の歳出追加額二千七百八十四万八千八百円 歳出合計四  
 億四千九百八十八万八千三百五十円

次に歳入に移ります。

第一款市税におまして三百八十万 これは固定資産  
 税において本年度調定額が増加いたる関係と当  
 然三百八十万位の増収はありと確認いたるもので  
 あります。

国有提供施設等所在市町村助成交付金につきまして  
 交付金が二百七十九万九千円に決定したので当初計より大  
 差額三十九万七千円を計上いたります。

次に地方交付税について千五百三十七万六千円計といた  
 ところで地方交付税も普通交付税もすべし九千  
 四百六十六万三千円に決定するものでござります。



今度特別交付税給与決定による増下見込みを以て  
確定に収入し得るものと見計し、以て計上する。

四款公営企業及び財産収入では自動車競技収入に  
おき、一、二百五十万計上する。競輪収入は、す  
べに千五百万入、を以てする。今後千葉と松戸の  
二回分昨年の実績下考慮、以て二百五十万計上  
する。

五款分担金及び負担金につきては、なお、以て  
説明あり、一、に神奈川道、地元負担金、を以て  
する。

七款団庫支出金に於いて百四十九万八千八百円、これは付託  
により、以て脚了承継、する。

渠天出金に於いて二十八万九千九百円、これはなお、以て  
説明あり、一、に豊林関係、を以て、補助金、を計上

五  
三  
一  
三  
六

次に九款寄付金について二百二十七万三千百円追加したい  
一、三、六、消防寄付といろいろして二〇分同神余分団の  
購入費の二分の一の額を計といろいろした、教育寄  
付金として館山高枝々地購入寄付金二十七万六千円  
でございります、これはPTAの寄付によりまして土  
地を購入しようとするものでございります、産業全済  
寄付金でございります、バニナ四千五百円水産養地元  
資理金の二分の一の額でございります。

一、款 噪越金で八十五万八千六百圓計といふ。また、これによりて前年度の噪越金二千九百五十万九千八百三十九圓のほとんどをこゝに計としたわけであるといふ。

一、款市債におい<sup>て</sup>五百万減額いたすこと、これは消

防方舎が当初予算におまして千五百万見込んだ  
のでもいいます。が、固の方針というもので三六年度  
には一千万許可になつたので五百万減つてしまつたのでそ  
の更正減をいいます。今日、歳入歳出追加額二千七百八十  
四万千八百円、歳入合計四億四千九百八十八万八千三百  
五十円、歳入歳出差引三残金といふません。

三、四番（松本 藤太郎君）歳入の九款寄付金で二中科学館の  
寄付は百五十万入つておりますが、これは今この予算  
にでたものであります。が、金が入つておつたのかどうか、二中  
科学館にでた上、たやうに私たち承知しておつたの  
です。たやうに他のもので二中、科学館にでた上、たの  
ち、その点のいままつて教えていたといふのでない。

市長（田村利男君）一月頃で、たと思ひます。が、川名正義君  
は百五十万の金をもつて寄付に参つたわけではない。

丁 受取、ております。

ニ 中科学館の向題につづいては四教室下作りまして  
すでに一教室下という科学館うーいものに使、てお  
り  
三 教室はまづ三年後頃中学生が減少してとくに作  
りかえろという段階で今普通教室に使用してある  
という形で現在使、ております。

・ 三四番(松市藤太郎君) そうでなく私も同、てあるのは金  
点でんです。科学館はもうでま上、てある。そうして  
今、に百五十万でくるという点でビミミとないん  
です。が、という工合なの。

・ 庶務課長(鷗沢貫堂君) 回答はいります。

科学館予定の建物は三五年ででま上、ておしま  
す。それに、工事業が三百四十万円、それ  
に伴い、講堂の脇の四教室下二階建に、

了してそこに四教室建てました。合計しました工事費  
が八百九十五万九千八百円という額になっております。  
財産関係から申しますと最初予定したものがより起  
債の額も多くまわります。二中から百五十万の  
寄金は三五年度で調定しないで三大年度に持ち  
越すわけで今同計といたうことでございまして  
三田養松本藤太郎君寄は金の百五十万円下どうりで  
まよ、ちや、とあつて調定したんですか。建物です  
るとまた再三説明があつてそうして議案も了承して  
ある。そうするとその時と今あつたがおっしゃること  
とはくい違ひがある。その中でいれ入つておると  
私たちは承知してゐる。科学館下でつるために  
学芸員を配したわけです。その当時二中の科学館  
下建つたのになういう多額の寄金は義務教育と

してゐないのではなにか、そうしてやゝ下得ない、いやな  
いのだけれども現状はこうであらうということとで了解  
して、實際科学館はでき上つてゐる。今こゝで調  
定してくるといふのはどういふわけか、まゐつてゐる、  
起債が多くつゝ、大というが起債が多くつればこれは  
いふない、調定する必要はない、學乙民に返すべし  
ものじゃないか、さういふこととでてくるので伺つて  
わけです。

議長(渡貫壮作君)暫時休憩いたします。

午後三時三十分休憩

午後三時四十分再開

議長(渡貫壮作君)会議を続行いたします。

・教育長（工藤和平君）先ほどの松本議員の質問に対して  
てお答えいたします。

＝中科学館の向題はたゞ／＼申してはさうに  
＝中学生急増対策として八教室作ることになった  
でありまして、八教室というのは教育委員会の方では  
六教室でこと足りるという計画の下に充足いたして、たと  
ころがたゞ／＼＝中科学館期成会なるものがありまして  
ゆへ／＼の力で科学館を作りたい。所要寄付下ですの  
で勘案してくれ。こういう申し出があるためわけでござい  
ます。それうす勘案いたしましてプラス二教室、八教室と  
いうもの、改修工事として始めまして、その工事費が九  
百二十万九千円。その取達は起債の五百万。補助の二  
百七十七万七千六百円。寄付の百五十万というふうになっ  
ておりますけれども、定は起債は当初三百万、こう予定

「それでございます。いろいろな関係で倍近い五百万と  
いう多額をもらいました。その百五十万の支出は急がず  
に、工事は完成したわけではございます。従ってこの  
金額の見返り金と申します。それについては将来勘  
案したい、こういうものでございます。」

三四番（松本）藤太郎君 大体三百万の起債の計画したものが、二百万多い五百万起債になるとの、五百五十万の寄付受入れなくしてでます、こういうことで、そうでございまして、これだけやり調整して、必ずしも一つ御説明願いたいと、私は思う、これでわからなければ、こちらが、貧乏しない、と、そのまゝ、通して、もう、最後に、で、決算、来年の今頃ではない、と、わからないう、ということ、で、くる、議、会、に、関、係、し、て、お、る、者、が、一、年、た、つ、て、し、ま、う、て、科、学、館、で、ま、う、ま、う、と、い、う、こ、と、で、は、ち、ま、う、と、わ、け



われも残念だと思ふ　　こういうふうな大まかな変わり方  
とすには、こゝにでるときに提案理として今後御説明  
聴いていきたいと思います　了解いたしました

③ 桑田村喜兵衛君 歳出体育費、工事費一千万円につ  
てお聞きしたいと思います

庶務課長(穂次貫覚君)御説明いたします

プールの入口果道、側溝でございまして　それには現  
在木材でふたをしてあるわけでございます　それが  
腐って参りましたのでコンクリートに変えていこうとい  
うのでございまして

④ 桑田村喜兵衛君 危険なところ、こう考へるわ  
けです　三三年度において船形校に野水池がござい

船形校は子供に危険であるという点とでや、そのし  
かし校内に野水池下もつところは高崎と二つしかない

高崎は危度では方がないが、ミールをええ支持があるか  
ないか御回答をお願いします。

庶務課長（親父貫寛君）早速現地を調べまして善処したい  
と思います。

二番（山本 昇君）福祉事務所長さんにお尋ねしたいのです  
が、社会労働施設費、青少年問題協議会に十万円だ  
してあります。果ては半分のでこちらで半分だけし  
てというのです。これはいつごろから始めてあるの  
か。前かうやっておるといふことは聞いてあるので  
すが、予算化してからは今度初めてのようです。思います  
が、今までという動きをしてあるか。また今後ど  
ういう動きをしていくか教えていただきたい。  
次に繰出金三百万についてもう一人教えていただきたい。

福祉事務所長（長谷川 玄治君）青少年問題協議会の関係で

ご存じです。現在任意設置ということをご検討正  
式に形の上で設置してある市とない市がございます  
す。協議会の活動と申し上げます。そういうものは  
とりとめてやっていただくわけですが、今回県の補助金  
がもうえられたわけですから、そのもうえる前提として青  
少年問題協議会下形の取組をとり進めなければい  
けないということ。設置要項に基づき、設置  
下りとして来年度の一月から発足する、こういう計  
画でございます。大体主眼というところは行政  
分野と申し上げます。話し合いの場、私どもの方で作  
る。そういうことで、実際の活動は公民館あるいはそ  
ういう団体に、実際のものはお願いしたい。私ども  
は実践に移すまでの計画と申し上げます。そういう  
いろいろ話し合いをする場合で、こういう

考へ方ではないです

・総務課長（山口実君）繰出金の三百万について御説明申し上  
 げます

この三百万は当初予算にふりまして、増山荘の増築  
 工事といつて起債を千二百万予定してあった  
 のではないです。今回九百万の決定で減額三百万の  
 不足を一般会計から繰り出そうとするものでない  
 です

・二番山本 昇君）初め多くいってけるような話です  
 であつたのですが大分減つたのです。という理由な  
 んです。

・総務課長山口 実君）休養施設関係の起債でござい  
 ます。当初私どもの考へておつたのは全園の状況をよく  
 らうから、この第一点でございします。

それらう圖の方針はその後増築面については許可し  
ないということと起つてきたのであります。いろ  
いろ骨下折りをしようやくこの増築分につ  
いては館山市以下三三の市で許可されること、こ  
れはお親しいわけでございます。初めはよくよく  
ゆるやかなので千二百万位くると思つていたわけ  
です。

一 釜山本 昇 忍 市長さんにお尋ねいたしますが  
課長さんへお話しでは事務的なることですが今  
いふように大分情勢に暗か、なというお話し  
です。市長さんは厚生省のことについては明ら  
か、で事前の話しであつてこの線下だとおれ  
るにはさうかと思ひます。

市長(田村利男君) 千六百万というのは玄室の第一回の

建築費は千六百万でございまして、今回の千二  
 百万というのは最初からでございまして、これに九  
 百万に減額されまして、九百万もその後金額が  
 ツというところに決定してわけでございます。す  
 べて館山市は、つまり、これにあれば、これがあるから  
 全然、いいところから、次々にも、ていくのを増設は認め  
 ないという想定になって、わけでございます。その後  
 一、二百万という運動、一、二百万で発行は、一、二百万、しか  
 一、千二百万という建物の坪数において、千二百万  
 は、ば、な、い、け、れ、ど、も、建、坪、の、単、価、の、問、題、で、九、百、万、  
 万、へ、う、さ、れ、て、も、よ、め、た、ら、増、築、下、す、と、い、う、  
 九百万で最初の設計、下、さ、る、意、志、が、あ、る、か、と、う、か、市、長、が  
 三、百、万、一、千、六、百、万、の、市、長、と、い、う、一、千、六、百、万、は、持、お、し、三、百、万、  
 一、千、六、百、万、は、千、六、百、万、持、お、し、な、い、で、や、な、い、で、あ、り、ま、す、が

それと乗換するやという事になったのです。そして  
の第一回の建築については大体三千万円位のところ  
で千五百万円加えて四千五百万円の鉄筋コンクリート  
でやるとあるというやうなその実態でございます。  
千六百万円そのまゝの費用でやると館山のケースは  
国民宿舍の場合でも特別の関係で私と厚生省の間に  
行われた、さういう形でございます。

二番（山本 昇）基本的な問題につきまして話すのですが  
私の記憶違ひかも知れませんがさういうあれがあるやう  
せの増築したというやうな、さううなお話でございます。要す  
るにそれだけ金があるやうな作りのだというのと作りた  
いから金下もらうというやうな基本的な觀念が違  
うと思ひます。

総務課長さん事情が暗い、なという事であえて市長

さんに御質問申します所ですが、そういふ事柄でよく御承知の市長さんでありまして、で初め厚生省の方からあれだけの見通しがつくので増築をしたのだ、かようなお話しのように聞いておったのです。が、今更ですと、それは大抵でないのだ。あつては、だめだ、という話。で、ようやく話しをつけてもう、な、ということになりまして、全然根本的なあれが違ふように考へるのです。が、どちらが本意なのか、もう一べん、

市長(田村利男君) 私がいづもいう通り、両方本意だ、という言葉に、すうすが最初あつたのです。あつたけれども、私も厚生省が各地の三〇のところ四〇・五〇と申請を持ちこたへてきたので増築という分はせいぜいなく、という觀念に、あつたのです。それで増築はせいぜい、だ、第一回で、あつた、というので、公的、回答があつた。



「――最初増築を認めるといふ言葉でいい、十年前は方々でいろいろ特別情け下もって認めてやることが三百万で済んだか、こういう逆襲を受けなければならぬ、それで心なう下もよく利用してくれらうので三百万のりて利用価値のあるのではないか、こう考へなければならぬ」  
「――墨田村信作君」畠林貴に「おさうじ」と、夏田令補助及び交付金三十万ですが、館山農業共済組合事務所建設費補助金とあるのです、これはどうして下りていますが、いふといふたてめえておつたのですか」

市長(田村利男君)「この問題は三十万円を建て、前にも市がどうしてもしなければならぬ、共済組合に補助金を下りてくれなければならぬ、建物はできないうで、何回となく山崎さんや三、五人の組合が申し込んでますが、市としては今金がないからとせないうとどつぱらでつぱらで

またわけのじまいです。その間、市でけどこか  
う借りて建てます。というところ、あります。が、帳  
面、う下合せるために、市の未払金、今おうという形  
に、借ります。が、おこうとして、家が、つても、さうやく、市で  
金、目算、がつます。その、三十万円、ついで、考慮、  
で、こういう形、じまいです。

二九番（萩生田七郎君） 隔離病舎のことについて伺いたいです。が  
館山市の負担、金が、六百四十万、計、えられて、ある。であ  
ります。が、予算書、下みます。設計費、工事費、等、が、計、え  
られて、あります。が、これ、けもうす。で、設計、け、で、さる、おの  
です。か、その設計費、という、の、も、五十万、計、えられて、お  
ります。で、お、この設計、う、れ、の、か、工事、の、入れ、見通し、  
いつ頃、なる、か、参考、に、お、さ、し、て、い、と思、い、ます。

厚生課長（伊藤幸太郎君） たい、い、ま、の、御質問、で、お、い、ます。が、

工事、設計は現在千葉の榎本建設設計事務所に委託してござります。これは組合議会、議決を致しましてや、ご承知です。予定というものは今月中に設計が完成する。来春早々入札という段取りで予定してあります。

三番目、節電。寄付金の中に神余小学校のピアノ代十万円とあります。備品もやけり、おえ負担金であるのでしようが、もう一つ水道費の中で、わけで本年度は渇水期で非常に市民も水不足で困るようですが、将来の見通しとして御説明があり、また、よく、とれませんが、そのごみれの説明も願っています。

庶務課長(穂沢貴寛君) 財政法の改正により、公費で、そのうちものは公費で支出するのび当然でござります。また、現在の段階ではああいうふうな多額のものに

於て全穂市費では無理でございますので、寄付下石  
頼いておわけをいたします。

建設課長新井重助君水道について御説明申しを承ります。

さういふの水源は有知の水便えろつは五万三千トン  
一ノ野水でござい、昨年来の旱天のため現在一万六  
千トンの野水でござります。本年の二月のう時雨給水  
下やゝとありましたが雨が降つてもあまりたまりな  
いという状況でございます。例年の例からみまして一

二月一月中旬に満水になり、ておればその年もござらず大丈  
夫というところでござります。が、まよゝく入梅に雨が降ら  
ない場合には足らなくなつて、さういふふうな事情でござ  
います。で、一応先ほど申しました塩分が一〇程度  
あるので飲料水に適さないというところでその旨にお  
知らせ。官城農業改良行組合の溜池をござります、こ

れが農繁期以外は水で使用するでありませんので組合  
と交渉の結果農業の必要のない時期だけくまされる  
こういうことに話—べ成り立ち—たので今回市と  
してその水でもうというところとでございまして何が  
という—でも三月頃まで満水になっておれば向  
に合うということとで何にしても二月末までに用水下計  
—てい—り—すが三月以降は農家の方で使うので  
水も上げられませんかのでその間ポンプで一日六百トン  
買上げている—この水でもってまかなって参  
り—い—の—です—お野水池に水がたまっているけれどそ  
—夏は早天の場合若干水も不足する—完全に給  
水はできないような状態とでございまして、それ—い  
—でも本年のよう—二時間程度の給水とい  
う事態は免れて普通五・六程度の制限—

ハウバ向に合う。かように考えます。一六本年度エタニ  
 フパイプ敷設いっしょして本年の夏に過して  
 いまのいと考えますが本年も農家の水がうる時期と重  
 複いっしょして本年も雨下待って給水してゆきたい  
 本年のようだと天の場合はやけに時間給水していい  
 より方法はいいと思います。

三 麦三反 節 翌先ほどのピアノ代金の問題ですが大きな支出  
 と違つて備品はわけと十位でしたうぜのとも今後  
 市費でまかなつてもううように御尽力いたしたいと思います。

水道の方ですが課長さんのお話しはわかりますが私  
 も百姓です。今水を使うのが早くなつて、三月  
 の水が必要になり、もうすばい一般需要者といつ  
 ても一季水の必要なのは夏では遅いかと思う、果



特産地指定とあり、野菜のパイロット地域に於いて、  
て、<sup>裁</sup>て、<sup>裁</sup>ていく考えでございります。この<sup>裁</sup>増地は現在神戸  
でございります。

総務課長（山口実君）誤植、改正下願いたします。寄付金の教育補助金とある、下教育費寄付金に訂正下願いたします。

議長（鴻貴壮作君）議案第一一〇号討論者畠原栄通り可決  
いります。御異議ございませうか。

（「異議」議「了」と呼ぶ者あり）

議長（鴻貴壮作君）御異議ございと認めます。  
さして議案第一一〇号は原案通り可決いたしました。

議長（鴻貴壮作君）日程第七議案第一二一号乃至第一二五号  
一括上程いたします。



(書目記 朗 読)

議案第一一〇号 昭和三十六年度特別会計公債償還追加更正予算

議案第一一一号 昭和三十六年度特別会計国民健康保険追加更正予算

議案第一一二号 昭和三十六年度特別会計と畜場追加予算

議案第一一四号 昭和三十六年度特別会計休養施設追加予算

議案第一一五号 昭和三十六年度特別会計波左間及び和賀各地区

簡易水道追加更正予算

厚生課長(伊藤幸太郎君)議案第一一〇号の説明トイフマシス

今回の追加予算額は二万七千五百円でございます その

財源といつては、これは子備費で更正いふところ、財源

に充てようとして、差引で零というところでございます

追加の主なものは需用費の若干の追加分でございます

保険課長(神作啓次郎君)議案第一一二号の説明トイフマシ

ス

又お一款役所費四十三万三千円追加依頼いいます。一  
目三、四目は省界マセていいます。

需用費二四節印刷製本費で三万円の依頼いいます。  
たゞこれは法の改正とともに支払い各種用紙の印刷代に  
不足です。一、二、三、四の依頼いいます。

三款保健施設費で二万八千七百円 同トく一、三、四目は  
省界一、二、三、四の依頼いいます。これは保健施設活動が強化され、一、二、三、四の保健婦  
の研修金などが当初の予定より多いために不足す  
る。一、二、三、四の依頼いいます。

又お計四十六万七千七百円 この財源はオ入の繰越金下  
充當していいます。

通計勘定について申しあげます。一、三、四目は省界  
マセていいます。追加九万九千八百円をい

ます 又入同トく九万九千八百円でございすす  
又入合計五丁六万五千五百円お願いいろーと

・厚生課長(伊藤幸太郎君)と畜場の合計でございすすバ

今回の追加予算額は二万五千三百円でございすす

それに於てます賦課といろーと使用料の増ト見と  
みろーと二万五千三百円トお願いすすわけです

・商工水産課長(羽山彦雄君)二四号について御説明申しとげま  
す

今回追加トお願いいろーと額は百三丁三万百円が  
ございすすバその主なものに需用の増によろすす原  
材料の購入百万でございすす そのほかこれに伴いま  
す電灯料その他ト見とみろーと

又入におまろーと利用の俤がト更とんでございすす  
すあ七款市債におまろーと今同三百万の減額トせと

一、九百万円と更正下お願にするわけでございます  
 又、従って第四款の繰入れ合計五百八万三千円にな  
 ります。この年度内に極力できるだけ繰り増しをい  
 こうという考えでございます。よろしくお願いたします。

○厚生課長（伊藤幸太郎君）一五号の簡易水道でございますが  
 まだ不敷、役所費で一万八千円の追加これは旅費その他  
 でございます。その財源といつては予備費  
 下更正の通りです。

第三款の水道費に於いてこれは款内の差引で  
 不足して、零でございます。先般水費に於いて  
 三万円の備品費の六千円の追加これは原材料費  
 のうち三万六千円更正の通りで財源に充てます。  
 従って合計零円でございます。

二、養老村信作君（休養施設）第三款 昨年度は元利金

とも確ハセ十萬返還したと思ひますが今年は大変  
利益ハ多かつたと思ひますが三月に可う可ければ精  
算でまじいと思ひますがけれども今の員通一では元金  
はこの位お返一でまじうすが

商工水産課長羽山 房雄 君「……いままの御質問は一般会計のう  
の繰入金について御質問と思ひますがこれは極力繰入  
れの減少下みたいと努力中でございますのでもう一ぱ  
らく待つていただきますと思ひます」

議長 鴻貫壮作 君 議案第一一五号乃至第一一五号下討論省界  
原案通り可決することに御異議ございせんか、

(「異議ござい」と呼ぶ者あり)

議長 鴻貫壮作 君 御異議ございと認めます

よつて原案通り可決されまう

本日の会議はこれにて散会という事で次回に來る

一二月ニ二月午前十時開会といふ事  
その議事は本月の日程に残り下議題といふ事  
散会といふ事

昭和三十六年十二月二十日

午後四時三十分散会

